



幸せをいただいて、ごぼ

自転車に乗りはじめてかれこれ十年になる。これぐらい年月がたつと、いつも変わらぬ同じところを走っていたことが分かってくる。一日に走れる距離というものも、体力と時間により制限されているから、ある半径の外に出て行くことができないのだ。であるから自転車に乗っているわけではあるが、マンネリズムにも乗っているということになってしまふ。

だからと言って、それが悪いとか望ましくないというわけではない。人間はもともと、生まれてから死ぬまで同じことをするように出来ているからである。朝起きる。ご飯を食べる。便所に行く。それからなんとなく動き回り、夜、暗くなると眠る。これの繰り返しをやつて、最後、死ぬことになるのが人間だ。だから自転車と同じところを毎日走っているからと言って、それを批判するのはいけない。あたりまえのことなのだからだ。実際、わたくしの近所に、朝になると自転車で一時間ぐらいどこかに行き、戻ってくる、ということを毎日繰り返している老人がふたりいる。ひとりは三十年前から同じ薄茶色のピケ帽をかぶっている。

もうひとりとは夏冬かまわず手拭で鉢巻をしている。何十年も同じ外見を維持しているところにふたりの共通点があるが、お互い知り合いであるわけでもない。それぞれまるつきり別々である。かれらは言い合わせたようにゆっくり走る。時速八キロメートルぐらいだ。人間のふつうの速度をすこし上回るほどである。見ていると、じつに悠然とした感じを受ける。

それでもいいのであるが、わたくしはいつもなにか新機軸を考え出したがる人間なので、今回も新機軸を考え出した。ではその新機軸というのはどういうことか。

自転車を分解して電車に乗り、東京都の北端の町に行き、自転車をこいで南端の町に達し、また電車で帰ってくる。あるいは逆に南端から北端に走るといふのもいい。われながらちよつとした新機軸と思えた。

そこで、東京都の北端と南端はどこなのであるか、わたくしは地図を出して調べた。答はずぐ出た。東京都のいちばん北は奥多摩町、いちばん南は町田市だった。ということは、奥多摩町から町田市、あるいはその逆を走れば、東京都のいちばん長い南北の線を走ったことになるのであった。

しかし、奥多摩町は遠いから、わたくしはそのひとつ隣の青梅市でよいということにした。たとえ奥多摩町まで走つても、その最北点は山岳地帯で、とても自転車が入れるようなところではない。奥多摩町の自転車進入可能地点の緯度は青梅市と大差ないのである。ちなみに奥多摩町の最北地点は北緯三十五度五十三分五十四秒で、青梅市の最北地点は北緯三十五度五十一分三秒である。であるから、要するに、この場合に限つてのことだが、青梅市に奥多摩町の身代わりになつてもらふことにしたのであった。

これで方針は決まった。

ところで、乗るべき電車と駅はどうするか。

これは考えるまでもなかった。青梅に行くならJR中央線の西荻窪駅だ。町田に行くなら小田急の成城学園駅である。両駅とも過去の輪行で何度も利用している。ただ、どちらに乗るにしても、ラッシュアワーにかからぬようにする。乗車時刻を六時とすればどちらでも大丈夫だ。

問題は帰りだった。しかし、これもすらすらと解決にたどりついた。町田駅の夕方は、上り下りともに混む。それにくらべると青梅駅はずつと田舎だから、こ